

## G-3 多賀城市八幡地区

2011年11月22日(火)

---

報告者名	菊地 暁	被調査者生年	1948年(男)
調査者名	菊地 暁	被調査者属性	電気店経営、農家、多賀城鹿踊保存会長
補助調査者	赤尾 智宏		

---

### 話者略歴

話者は昭和23年八幡生まれ。話者家はもともと中谷地にあり、戦時中の海軍工廠建設に際してこの地に移転してきた。もともと農家で、現在も電気屋の傍らに畑仕事をしている。奥さまは本吉郡の出身。今回の震災では多くの親戚が被災している。

### 震災のこと

地震の時は仙台で配達中で、8階からエレベーターで降りる時だった。これはただ事ではないと思い、急いで自宅に戻って、母を2階に連れて行ったところで津波が来た。自宅の周辺で1メートル50ほどの津波が来た。押し流された自動車が店のガラス戸を壊し、店が浸水して商品も全部ダメになった。オシャカになった商品の補償は全部店側の負担。保険にも入っていなかったのが大変だった。ガラス戸を全部修理してもらって、8月?に店を再開した。床は大丈夫といわれたので元のままだが、時々塩が白くうかんでくる。

鹿踊保存会のメンバーの中には、装束一式を納めた箱を津波でさらわれた人もいる。さらわれなくても、津波で塩水を被ってだめにしてしまった人もいる。話者の装束は無事だった。

### 鹿踊のこと

話者はA氏の跡を継いで3年前から多賀城鹿踊保存会長を務めている。

多賀城鹿踊はもともと中谷地に伝えられた鹿踊が長らく途絶えていたものを、多賀城市の市政施行を記念して復活させたもの。振り付けはモダンダンサー初江道子氏が創作した。そのため、飛んだり跳ねたりが多いので相当しんどい。歳を取ると特にそう。1公演25分ほどだが、面を被って激しく動くので、終わると椅子にぐったりと座り込んでしまう。あまりしんどいので、別の振り付けを考えようともするのだが、なかなかうまくできない。

踊り手のなかではB氏(中谷地出身)だけ踊り方が異なり、道化師のような踊りをする。もともとそういう素質があった人で、歌は上手、踊りも上手で、初江道子氏にも「あなたはそのまま良い」といわれ、ヒョットコのような面を被り、相撲の行司のような恰好をして踊ることになった。踊り手の真ん中でそのような踊りをするので、けっこう目立つ。

以前は依頼でいろいろな所に出演した。仙台のホテルに行って会議の前座をつとめたこともあるし、盆踊り会場で踊ったこともあった。東北地方の郷土芸能大会にも出演した。今は会員に勤め人が多くなり、日曜しか予定を組めないのが、多賀城市の行事に出演するだけ。話者の奥さん

が保存会の窓口のような役目をしている。

練習は月1回程度。出演前にもする。多賀城公園にある多賀城市郷土芸能道場を使っていたが、耐震補強がなされていないため、現在使用できない。最近は沖公民館を使っている。

現在の保存会員で中谷地の出身者は半分ぐらい。新入会員は知り合いの知り合いを探して入ってもらうことが多い。以前、一度公募をしたことがあるが、うまくいかなかった。C氏も、市議会議長の仕事が忙しくなったのでD氏に入ってもらった。D氏はもともと民謡をやっていた人なので覚えが早い。4月頃から11月頃まで公演があるので、その間の休みの時期に入って練習してもらって、次のシーズンから出してもらった。尺八経験者に横笛をやってもらった時も、素養があったので覚えが早かった。E氏は中谷地出身でもなく、多賀城市在住でもないが、友達が友達をよぶ形で加入してもらった。それでも新しい人、若い人に入ってもらいたいと、せっかく復活させた鹿踊を絶やしたくないと思っている。

最近、八幡小学校の総合学習で小学生に鹿踊を教えた。教育委員会にお願いして、学校で教えてくれとって始めた。市に小学生用の衣装や用具も用意してもらった。子供たちから、いろいろなことを質問された。最後に衣装を着せて太鼓を叩かせる。今年は震災のため中止。来年度以降の見通しもたっていない。

小学校で教えても、中学校に上がると止めてしまう。中学校で教えるほうが良いのかもしれないと思うが、先生が替わって興味のない人だとなくなってしまったりもする。中学校に芸能部のようなクラブを作ることも考えているが、学生の多くが他の部活動に入るため実現は難しい。八幡には中学校がなく、中学校は高崎中学校に通う。高校生になると仙台市内に通う人も多い。自分の息子は船岡の会社に勤めており、八幡から通っているが、鹿踊には入ってくれない。

この辺りは都会風でまとまりがない。人の出入りが多く、寄せ集めだ。駅前に大きなマンションがあり、小学校もそこから通ってくる子供が大半。余所から来た人の子供たちなので、小さい頃から鹿踊に親しんでいるわけではない。田舎のほうなら自然に鹿踊に混ざってくれるのだと思う。戸倉の町は震災で大きな被害を受けたが、地元の人が郷土芸能を残すのに一生懸命で、加山雄三とエグザイルが来て一緒に公演していた。とても良いことだと思う。